

【令和8年度 医療介護専門職研修会】

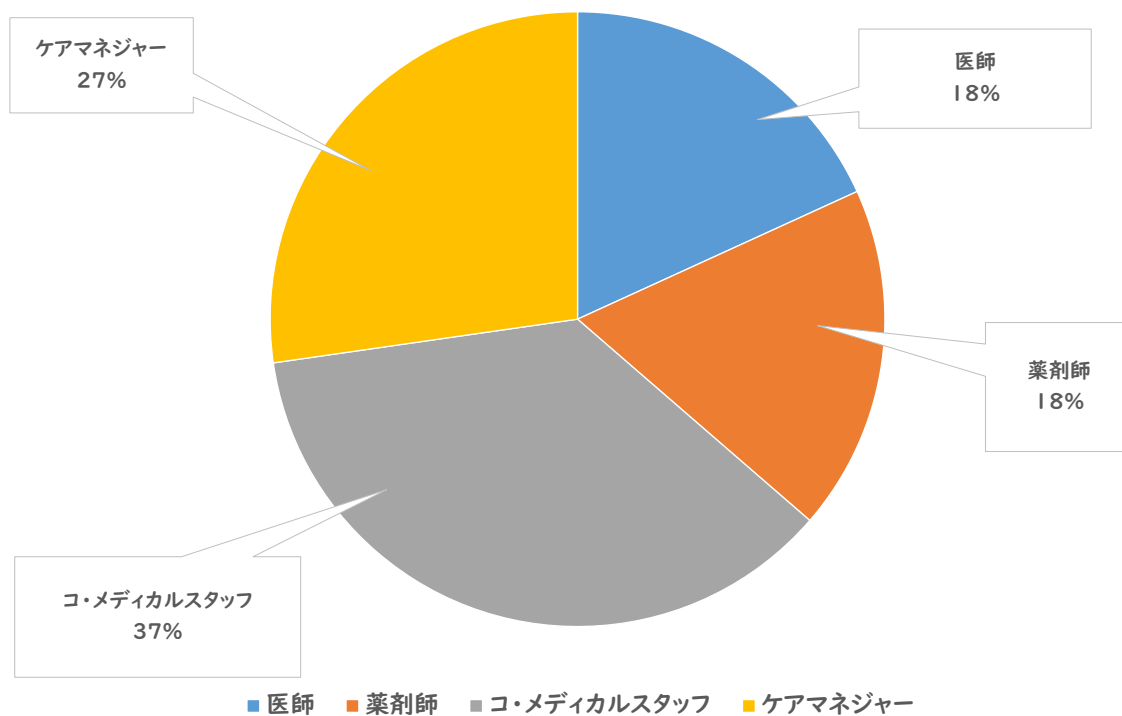
●開催日 令和8年7月16日(木)19時～20時00分

●テーマ「現場で活躍するリハビリ情報～地域包括ケアを支える多職種で共有する～」

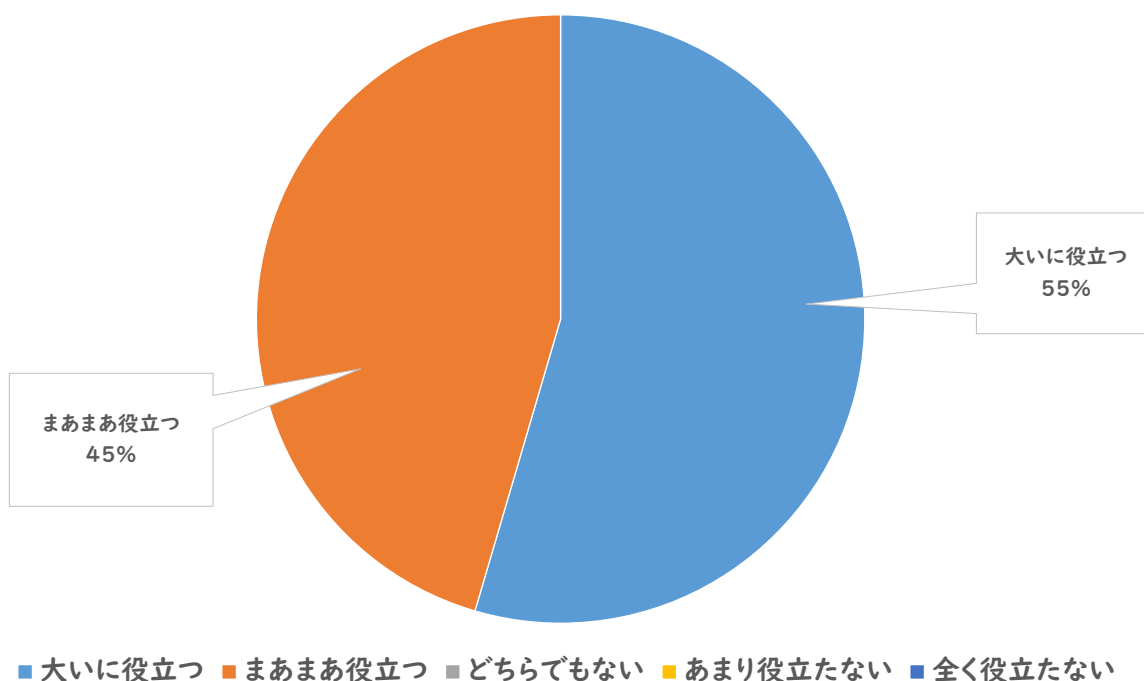
●当日参加者 39人(Zoom23人 YouTube16人) 参加率72.2%(申し込み 54人)

●アンケート回答数 11人 回答率 28.2%

Q1: 職種



Q2: 今後の業務に役立つ研修会であったか?



●参加者からの感想

- ・自分がわかっているつもりでも、キチンと理解できていないことが沢山あるのだということを再確認できた。
- ・細かい点をよく理解できました。わかりやすい内容でした。
- ・今後、在宅医療のさらなる発展が必要と再確認いたしました。
- ・わかりやすかった。
- ・良かった。
- ・リハビリの基礎知識を再度学べて良かったです。ADLを見る際の注意点など理解することができました。
- ・今まであまり視点を置いていなかった資料等の読み込み、具体化を実行に移したい。
- ・しているADLとできるADLを区別し記載する大切さを改めて感じた。多職種と連携しご本人、ご家族にとって最善な生活方法を模索する必要があると感じた。
- ・ADLの評価、しているADLはFIM（回復期で使われる事が多い）、できるADLはBI（急性期で使われる事が多い）の違いを学んだ。後の参考にしたい。
- ・リハビリテーション経過報告書と総合実施計画書において、専門用語で表記されていて、ご家族の方には理解がしにくい場合があるというお話がありましたが、やはりご家族の方のためにもわかりやすい報告書の説明が大切なのだと感じました。介護の現場、多職種での連携にはまだまだ壁があり、しっかりと情報共有とコミュニケーションを行っていくべきだと思いました。
- ・リハビリテーション経過報告書とリハビリテーション総合実施計画書の違いについて理解することが出来ました。また、基本動作、移動動作、ADL動作をみる視点について学ぶことができました。

●今後の研修会開催に関するご意見

- ・患者さんやご家族の社会的支援について。
- ・栄養。
- ・運動療法やストレッチ。

●その他、ご要望・ご意見

- ・わかりやすい研修会、ありがとうございました。
- ・少人数で「本音トーク」知らないことが多いので・・・なかなか聞けない実情があります。

●参加者からの主な学び

① リハビリ基礎知識・ADL視点の再確認

- ・「しているADL(FIM)」と「できるADL(BI)」の違いや区別して記載する重要性を学べた。
- ・基本動作・移動動作・ADL動作を観察する際の視点や注意点が整理できた。
- ・資料の読み込みや具体化など、今まであまり意識していなかった視点を現場で実行したい。

② 書類理解とご家族・他職種への分かりやすい説明

- ・「リハビリテーション経過報告書」と「リハビリテーション総合実施計画書」の違いがよく理解できた。
- ・専門用語の表記について、ご家族や他職種にも理解しやすいよう丁寧な説明と共有が必要だと再認識した。

③ 多職種連携・コミュニケーションへの意識向上

- ・多職種でしっかり情報共有・コミュニケーションを行い、本人や家族にとって最善な生活方法を模索したい。
- ・介護の現場や多職種連携における壁を乗り越える必要性を感じた。

●伊達地方在宅医療・介護連携支援センター 総括と今後の展望（まとめ）

- ・研修成果として、作業療法士の視点から「できるADL/しているADLの違い」や「各種計画書・報告書の読み解き方」を具体的に解説いただいたことで、受講者全員から「役立った」との回答を得られた。単なる知識習得にとどまらず、「ご家族へのわかりやすい説明」や「現場での具体的な情報共有」など、明日からの実践・行動につながる深い気づきを提供できた研修となった。
- ・継続的な多職種連携の場づくりの視点として、報告書や専門用語の壁を低くし、顔の見える関係で対話しやすい環境整備（情報共有の場の提供）を進めていく。